

普通科人文社会 教育26班

タイトル「環境音が学習に及ぼす影響」 班員 村田

岳琉 尾崎悠史 椎葉香純 指導者 森脇達哉先生

小川悠太 松田彩音

研究の動機

・学力向上につながる。
(ターゲットは人文メンバー)



研究の目的

・環境による自習の質の変化を解明 する
ため。

先行研究

・教室環境の質が児童の体調と集中力
に与える影響に関する実態調査。

研究方法

- ①班のメンバーや人文のメンバーがそれぞれ静かな部屋、程よい環境音がする部屋、大きい音が鳴っている部屋の3つの部屋でアルファベット20個の羅列を暗記するテストを複数回行う。
- ②すべての実験をグラフなどでデータ化する。
- ③どのような環境が1番適していたか結果を出す。

必要な道具

- ・自習に使うアルファベットがある紙
- ・大きい音を鳴らすスピーカー



仮説

・静かな空間や、ほどよい環境音がある空間が集中して自習ができる。

作業時の環境条件が精神反射電流(PGR)に及ぼす影響

しゃべらない



研究計画

- ①班のメンバーや人文のメンバーがそれぞれ静かな部屋、程よい環境音がする部屋、大きい音が鳴っている部屋の3つの部屋でアルファベット20個の羅列を暗記するテストを複数回行う。
- ②すべての実験をグラフなどでデータ化する。
- ③どのような環境が1番適していたか結果を出す。

今後の流れ

4月～5月	①
6月～7月	①
8月(夏休み)	①
9月～10月	②
11月～12月	③

参考文献

・全国の課題研究の教室環境の質が児童の体調と集中力に与える影響に関する実態

教室環境の質が児童の体調と集中力に与える影響に関する実態
作業時の環境条件が精神反射電流(PGR)に及ぼす影響